

研究課題名	膵腫瘍に対するEUS-FNAB（Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration biopsy：超音波内視鏡下穿刺吸引生検）における新型穿刺針の有用性についての検討
研究の意義・目的	膵腫瘍性疾患は膵癌といった非常に予後の悪い疾患を含んでおり、診断法として超音波内視鏡という胃カメラを使い膵臓の組織を採取する「超音波内視鏡下吸引生検；EUS-FNAB」が有用とされています。EUS-FNABは診断の成績が高く安全な検査ですが、それでもなお、診断が難しい場合もあり、治療のタイミングを逸する可能性があります。診断をより早く適切に行うためには十分な組織の量が必要ですが、従来型の針では不十分である場合があります。最近、利用可能となった新しい針は十分な組織量を採取できることから、診断成績があがるものと予想されます。新しい針の使用報告はありますが、まだ数も少なく、十分な情報が得られていないのが現状です。当院は年間100例程度EUS-FNABを行うハイボリュームセンターであり、新しい針の使用実績も多いので、その情報を振り返り検討することで、針ごとの診断成績や安全性に関わる因子を見極め、より安全により正確な検査を提供できることになればと考えています。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～ 2027年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2007年1月～2022年2月22日までに大阪市立大学医学部附属病院の消化器内科で、膵疾患の診断のため超音波内視鏡下吸引生検をされた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、超音波内視鏡検査情報、腫瘍マーカー
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 丸山 紘嗣
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	担当者：垣谷 有紀 所属：大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 住所：大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話番号：06-6645-3811